

葉いもちが発生しています！ いもち病の発生状況を観察し、穂いもちの発生を防ぎましょう。

7月上～中旬の水稲巡回調査において、葉いもちの発生が県下全域に見られています（表1）。さらに、[BLASTAM](#)による感染好適条件（●）が県内広域で出現し、いもち病が発生しやすい状況となっています（表2）。また、いもち病無防除のほ場等において、葉いもちの発生が多いほ場が見られています。

早植コシヒカリの出穂期は平年より4日程度早いと予想されています。発生状況をよく観察し、時期が遅れないように適期防除に努めましょう。

1 発生状況

7月上～中旬の水稲巡回調査では、県全体の発生ほ場率が35.9%（平年値24.6%）、発生株率が2.7%（平年値1.0%）と平年より発生が多い状況にある（表1）。

表1 葉いもちの発生状況調査結果（7月上～中旬） （1ほ場あたり100株調査）

地区	調査ほ場数	発生ほ場率（%）		発生株率（%）	
		本年平均値	平年値	本年平均値	平年値
県北	30	36.7	25.3	1.0	0.6
県央	28	35.7	26.4	0.5	1.2
県南	20	35.0	23.0	8.3	1.4
県全体	78	35.9	24.6	2.7	1.0

2 葉いもち感染予測モデル（BLASTAM）による葉いもち感染好適条件の判定結果

7月に入ってから天候不順により、7月7日～7月20日には県内各地で感染好適条件（●）や準感染好適条件（○）が出現している。感染好適条件（●）が出現した日から7～10日後に発病する可能性がある。

表2 [BLASTAM](#)による葉いもち感染好適条件の判定結果（令和4（2022）年7月4日～7月20日）

日付	那須	黒磯	大田原	塩谷	真岡	宇都宮	今市	鹿沼	小山	佐野
7/04	—	—	—	○2	—	—	—	○2	—	○2
7/05	—	—	○2	—	—	—	○2	—	—	—
7/06	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/07	●	—	—	—	—	—	—	○2	—	—
7/08	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/10	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—
7/11	—	—	—	—	—	—	●	—	—	—
7/12	●	—	—	●	—	—	●	—	—	—
7/13	—	—	—	—	—	—	—	○2	—	—
7/14	○4	—	●	—	—	—	●	○2	—	○2
7/15	—	—	—	—	○2	—	—	—	○2	○2
7/16	—	—	●	—	—	—	—	—	●	—
7/17	—	—	—	—	●	—	●	—	●	●
7/18	○1	●	●	—	—	—	—	●	—	●
7/19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/20	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—

●：感染好適条件 ○：準感染好適条件 —：感染好適条件なし

[BLASTAM](#)：気象庁のアメダスデータを用いて葉面の湿潤時間を計算し、いもち病（葉いもち）の感染しやすい条件を推定するシステムを農業環境指導センターホームページで公開しています（6～8月）。





写真1 葉いもちの症状（進展型病斑※）

写真2 穂いもちの症状

※一般的に本病斑は大量の胞子を形成し、二次伝染が起こりやすいため注意が必要です。

3 防除対策

- (1) ほ場内をよく観察し、いもち病の発生状況を確認する。中山間地域の常発地や葉色の濃いほ場、いもち病に効果のある箱施用剤等、本病防除をしていないほ場は特に注意する。
- (2) 上位葉に葉いもちが多いと、穂いもちが発生しやすくなるので、穂いもち防除を徹底する。
- (3) 液剤で防除する場合、出穂直前から穂ぞろい期に防除を行う。
- (4) 粒剤で防除する場合、効果の発現までに7～10日かかるので、適切な時期に使用する。
- (5) 葉いもちに効果のある予防剤（箱施用剤など）を施用したほ場でも被害が発生することがあるので、発生状況を見てFRACコードの異なる薬剤を選び防除を行う。
- (6) 本田防除剤でQoI剤（アミスターエイト（FRAC:11）等）を使用する場合、耐性菌リスクが高いため、多発時の使用を避け、使用は最大で年1回とする。

表3 いもち病に登録のある主な薬剤（令和4（2022）年7月26日現在）

薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	本剤の使用回数	有効成分	FRACコード
ブラシフロアブル	1000倍	収穫7日前まで	2回以内	フェリムゾン	U14
				フサライド	16.1
ダブルカットフロアブル	1000倍	穂揃期まで	2回以内	カスガマイシン	24
				トリシクラゾール	16.1
カスミン液剤	1000倍	穂揃期まで	2回以内	カスガマイシン	24
アミスターエイト	1000～1500倍	収穫14日前まで	3回以内	アゾキシストロビン	11
トライフロアブル	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	テブフロキン	U16
コラトップ豆つぶ	250～375g/10a	葉いもちに対しては初発10日前～初発時 穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	2回以内	ピロキロン	16.1

詳細は、農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「農政部ツイッター（@tochigi_nousei）」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。



6月～8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。
いつものチェック！ 農薬を使用する際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！

